

フキノトウ新品種‘春音’の育成とその特性

岡部和広

(山形県最上総合支庁産業経済部農業技術普及課産地研究室)

Breeding of a New Japanese Butterbur ‘Haruoto’ and Its Characteristics

Kazuhiro OKABE

(Yamagata Mogami Agricultural Technique Improvement Research Office)

1 はじめに

フキノトウは認知度が高い山菜で、首都圏を中心に2～3月の需要が高い品目である。しかし出荷されているフキノトウの大部分は野山に自生する個体からの採取(野どり)で、多種多様な自生種から収穫したものを調製・出荷しているため、品質が大きくばらついている。そこで、市場性の高い品種(直径30mm程度、苞葉が開きにくい、しまりが良好、赤味が少ない)を育成し、その特性を明らかにした。

2 試験方法

(1) 育成素材

2003年3月に山形県最上郡北部地域の自生地より、フキノトウの苞葉の開きが遅く、しまりが良好な9個体の地下茎を採取し、選抜に用いた。

(2) 栽培概要

品種は育成した‘春音’に対し、主に茎葉を利用する‘京ブキ’、‘愛知早生’を対照として供試した。2009年4月1日にランナーを7cmに調製して出芽させ、9cmポリポットに鉢上げして育苗した。畝幅1.5m、株間0.3m、2条千鳥で5月20日に定植し、黒マルチ栽培とした。施肥は窒素成分で10aあたり10kgを全量基肥でマルチ内に施用した。茎葉の黄化が始まった11月13日に機械で株を掘り上げ、戸外に並べて黒寒冷紗をべたがけし、雪下においた。12月25日から順次株を取り出し、温室内のトンネルに入れて最低温度5℃で促成して肥大特性を調査するとともに、温度と遮光条件の促成環境が品質に及ぼす影響について調査した。

3 試験結果及び考察

(1) 育成経過

2003年3月に、山形県最上郡北部地域の自生地に

おいて群落を形成している中から9個体の地下茎を採取し、同年5月から2004年4月まで圃場にて養成した。融雪後、優れた形質をもつ4個体を有望な系統群として1次選抜し、2004年から2007年に毎年地下茎繁殖法により世代を更新させながら選抜を繰り返し、目標とするフキノトウの形質を安定的に発現する1個体を2次選抜した。2010年に品種登録出願し、同年8月25日に‘春音’として公表された。

(2) 品種特性

‘春音’のフキノトウは株あたりの着生数が多く、商品率が高く、収量が高い(表1)。直径は約30mm、形は球～卵型である(表2)。調製で除去する苞葉数が10～23枚程度の幅があり(表2)、調製後の開きが少なく、しまりが良好で、赤味が少ない(図1)。

促成時にはタテに伸長し、直径の肥大は少ない(図2)。タテ伸長は12月25日の促成では2週間後から、1月15日および2月15日の促成では1週間後には見られ、時期が遅いほど伸長が速まる。

温度が低く、遮光率が高い条件で促成すると開きが遅く、5～10℃では遮光率80%以上、15℃では遮光率100%の外観品質が優れる(図3)。一方、ポリフェノール類は、温度が高く、遮光率が低い条件で高まる傾向がみられる(図4)。

4 まとめ

系統選抜により、収量性が高く、品質に優れるフキノトウ専用新品種‘春音’を開発し、特性を明らかにした。

謝辞：ポリフェノール類の分析にご協力いただいた山形大学農学部教授五十嵐喜治先生、(株)日東ベスト研究員滝田潤氏に感謝する。本研究の一部は文部科学省委託研究事業「地域イノベーション戦略支援プログラム(鶴岡庄内エリア)」にて実施したものである。

表1 フキノトウの収量性

10株4反復調査

品種	着生数 (個/株)	商品率 (%)	階級別商品個数(千個/10a)							商品収量 (kg/10a)
			2L超	2L	L	M	S	S未満	合計	
春音	10.2	71.9	1.0	2.3	2.0	3.4	8.7	14.0	31.3	211.2
京ブキ	3.0	62.7	0.0	0.0	0.1	0.8	2.1	5.2	8.2	34.0
愛知早生	1.8	25.0	0.0	0.0	0.1	0.2	0.3	0.8	1.4	7.5

x) 20g > 2L ≥ 15g > L ≥ 11g > M ≥ 7.5g > S ≥ 4.5g とする

表2 フキノトウの形態

20株調査

品種	苞葉数 ^z (枚)			苞葉色 ^y		1個あたり 重量(g)	花穂長 (mm)	直径 (mm)	花穂長/ 直径
	調整前	調整後	調整限界	調整後	調整限界				
春音	46.9	36.4	23.0	3703	3503	9.0	38.8	28.0	1.39
愛知早生	—	—	—	—	—	12.5	61.0	33.0	1.85

z: 調整前は収穫直後、調整後は汚れがなくなるまで、調整限界は花らいが見える直前まで苞葉を除いた状態。

y: 日本園芸植物標準色表に基づく

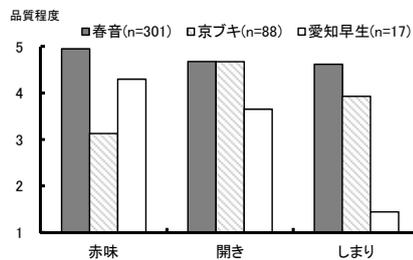


図1 調整後の形状(左)と品質(右)

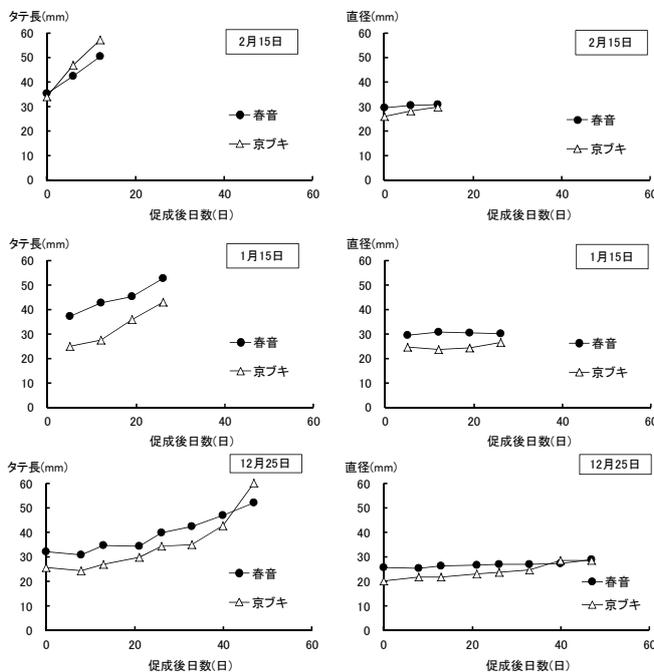


図2 フキノトウの肥大特性

(左がタテ長、右が直径、日付は促成開始日を示し、花蕾が苞葉から見える直前まで調査)

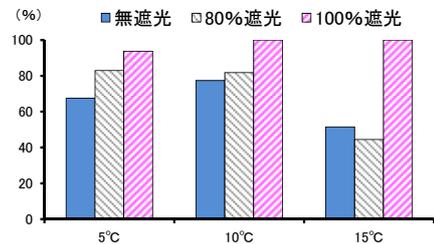


図3 促成条件が苞葉の開きに及ぼす影響 (収穫時の開き程度が3以上の割合を示す)

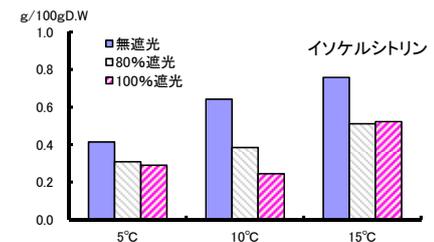
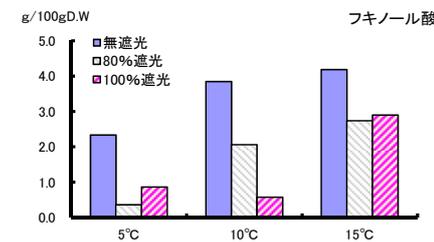


図4 促成条件がポリフェノール含量に及ぼす影響